

事務事業名	スズメ蜂駆除事業 ☐ 実施計画事業		所属部局	市民部		単位番号	4085												
			所属課室	環境課		課長名	深澤 政樹												
			所属担当	環境保全担当		担当者名	花輪 俊明												
基本政策	基本計画 IV	快適で心のかよいあう都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目									
政 策	20	快適生活環境の整備	事業区分	01	一般	0	4	0	1	0	5	0	2	0	0	8			
施策	33	生活環境の保全		☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業															
				☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業															
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 年度) ☐ 期間限定複数年度 (年度) ~ 年度)		法令根拠																
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 公共施設等へ巣をつくるスズメ蜂等を駆除し、安全、安心に施設が利用できるよう環境の保全に努める。			事業費の主な内訳 (22年度)															
				項目(細節)				金額(千円)				項目(細節)				金額(千円)			
				手数料				177											
												計				177			

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	公共施設へ巣をつくるスズメ蜂等の駆除のみ業者へ依頼し、市民からの依頼によるものは、業者を紹介するのみとする。
23年度活動予定	公共施設へ巣をつくるスズメ蜂等の駆除のみ業者へ依頼し、市民からの依頼によるものは、業者を紹介するのみとする。
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
公共施設等へ巣をつくるスズメ蜂の駆除をする。	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	
公共施設等へ巣をつくるスズメ蜂の駆除することにより、利用者が安全、安心に利用できるよう努める。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
利用者の安全確保が第一の意識の高揚。	

⇒ ⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 業者に駆除を依頼した件数	件
イ	
ウ	
⇒ ⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 公共施設からの駆除依頼件数	件
イ	
ウ	
⇒ ⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 公共施設からの駆除件数	件
イ	
ウ	
⇒ ⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 利用者の立場になって環境への認識度	%
イ	

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	391	177	187	380	380	380	
	事業費計 (A)			千円	391	177	187	380	380	380	0
	人件費	正規職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3		
		延べ業務時間	時間	366	366	366					
		人件費計 (B)	千円	1,633	1,633	1,450	0	0	0	0	
		(A)+(B)			千円	2,024	1,810	1,637	380	380	380
活動指標		アイウ	件	210.0	13.0	13.0	20.0	20.0	20.0		
		アイウ	件	210.0	13.0	13.0	20.0	20.0	20.0		
対象指標		アイウ									
		アイウ									
成果指標		アイウ	件	210.0	13.0	13.0	20.0	20.0	20.0		
		アイウ									
上位成果指標		アイ	%								

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	南アルプス市消防署発足以来、市民サービスの一環で開始された。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	近年蜂駆除出動件数が多く、本来の消防業務に支障が出ていた。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	南アルプス市消防署より近年出動件数が多く、本来の消防業務に支障が出ているため、蜂駆除を廃止していただきたいとの要望が出ていた。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	数年前より消防署からの要望で、蜂駆除廃止に対する、検討は行ったが、実現には至らなかった。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	平成22年度より市民には業者紹介のみ、公共施設では業者対応とすることに変更した。

事務事業名	スズメ蜂駆除事業	所属部	市民部	所属課	環境課
-------	----------	-----	-----	-----	-----

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 公共施設を利用する市民に安心、安全に利用してもらうため、施策に結びついている。
	②公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 公共施設を利用する市民に安心、安全に利用してもらうため、税金の投入は妥当と思われる。
	③維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 市民の生活環境の保全を考えれば妥当と思われる。
有効性 評価	④成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 生き物(蜂)を対象としているため。
	⑤類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入！) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない
	⑥休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 この事業で行わなくても、蜂駆除は当該施設で行えば影響なし。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 当該施設の蜂駆除業務となるので休止廃止できる。
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 市民の安全を守るためには削減はありえない。
	⑧人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 平成22年度から業者への委託業務のみであるので最低限度の人件費である。
公平性 評価	⑨受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 公共施設のための駆除であるため、公平・公正と思われる。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	本事業は公共施設のための対応としているので、それぞれの所管課にて対応する事が本来の姿と考えるが、効率性を考えると現実的にはやむを得ない。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について																								
①特になし。																								
②																								
③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		(5) 事務事業優先度評価結果																						
①		成果優先度評価結果	⑫																					
②																								
③		コスト削減優先度評価結果	⑥																					